

古川小学校 第6学年 国語「みんなで楽しく過ごすために」 実践報告

【単元の導入】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
<ul style="list-style-type: none"> 日本の大きな災害、飛騨市の過去の災害の資料をもとに話し合う。 今後、予測される地震の確認 避難所生活の様子を、資料をもとに話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> いつ起こるか分からないから怖い あと17年くらいで起きるのがヤバい みんな寒そうにしている 自由にくらせない 楽しくない (飛騨市の過去の写真をみて)「ここは〇〇(地名)か?」「えー!こんなにひどかったの!?ヤバい!」 	<ul style="list-style-type: none"> 全国や飛騨市の過去の災害の写真 過去の災害や今後のデータ 避難所生活の写真
<ul style="list-style-type: none"> 議題の確認 	避難所生活で、小6の自分たちにもできることは何か	
<ul style="list-style-type: none"> 目的の話し合い 避難所生活でどんな様子や思いになってほしいか等 意見を出し、目的の決定 	<p>1組</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心。笑って。元気に。明るく。笑顔。 目的 「避難所の人たちに、安心して明るく笑顔で過ごせるように、自分たちが地域のために役立つ」 <p>2組</p> <ul style="list-style-type: none"> 家にいる気分。ストレスなく。リラックス。安心。落ち着く。元気。笑顔。体調を崩さない。 目的 「避難所のみんなが笑顔で楽しく、快適に過ごせるようする」 <p>3組</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心。笑顔になれる。ほっとする。元気になれる。 目的 「避難所の人たちに、安心して楽しく生活してもらう」 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

※準備、活用したワークシート

※他に主張できる人は、ノートかロイロに「主張」「理由」「根拠」を書こう!

根拠..	理由..	主張..	課題..	条件..	目的..	議題..
質問されそうなことや、それに対する考え、より説得力のある根拠を探したり考えたりしてみよう。				根拠..	理由..	主張..

国語「みんなで楽しく過ごすために」

月 日 年 組 番 名前()

【展開1】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
・議題と目的の確認		・ワークシート
・条件の確認	1組 ・古川小学校体育館 ・冬 ・約500人 ・体育館にあるものしか使えない ・大雪での避難 ・仕切りがない ・赤ちゃん～高齢者 ・お金をつかわない	
	2組 ・古川中学校体育館 ・300人ほど ・あるものは、水・食べ物・ペット・お金・鉛筆・懐中電灯 ・物が買えない ・秋	
	3組 ・古川小学校体育館 ・1000人くらい ・高齢者と子どもが多い ・お金をかけられない ・冬 ・大地震のための避難	
・自分の考えを整理 主張、理由、根拠	・個人で考えていたが、途中からは近くの仲間に相談していた。 ・自分事や本当に可能かなどは、まだ考えが浅い。	

【展開2】

主な活動内容	主な児童の反応	主な活用資料等
・前時までの確認	・前時より、自分事や本当にできそうか考えた。 ・話し合いの方法を参考に、仲間に関心かけたり質問をしたりしていた。	・ワークシート
・本時の目的、班で決定案を出すことを確認。		・教科書の動画
・話し合い方、広げ方、まとめ方の確認。その後、話し合い活動。		
・各班の発表（代表者1名）	・各班で話し合っ、できそうな案を1つに絞り、全体で発表、交流。 ・発表を聞いた仲間からは、「〇〇は本当にできるのか?」「道具がないから難しいのでは?」というような意見も出た。	

【展開3】

<ul style="list-style-type: none"> ・決定した案（6班分）を飛騨市防災士会の北平さんへデータで送る。 ・評価やアドバイス等をいただくようお願いをした。 ・後日、データで評価やアドバイス、参考資料等をいただいた。

【 授業を通して 】

- 飛騨市のことや東海地震の危険性を示したことで、自分事ととらえ危機感をもてる児童が増えた。
- 「6年生」という視点で、特に、班での話し合いになるとよく考えていた。
- 自分たちの考えを専門家に見ていただき、意見をいただけたのがよかった。新しい視点も提示していただけて、児童の学びが広がった。
- ▲「本当にできるのか」という視点は弱く、もう少し、防災士の方から厳しく指摘してもらってもよかった。
- ▲仮決定から本決定への交流が、思っていたより意見が出にくく、改善の余地あり。
- ▲条件など、自分たちで考える時間をもう少し確保してもよかった。
- ▲可能であれば、実際の体験談などを直接話してもらう機会があると、より現実味を感じられ、いざというときに備えられるのではないかと。